資料３－①

森林生態系の管理目標に関する現状把握・評価について

目次

１．令和６年度の実施内容 1

①屋久島の多雨環境を反映したシダ植物の林床被度の回復 2

②屋久島世界自然遺産の顕著な普遍的価値である植生垂直分布を形成する植物種の多様性の回復..... 2

③ヤクシカの嗜好性植物種の更新 3

④絶滅のおそれのある固有植物種等の保全 3

２．今後の取組予定..... 3

林野庁　九州森林管理局

１．令和６年度の実施内容

本年度は、表１の森林生態系の管理目標のうち、①の目標については植生保護柵６箇所で現地調査を実施し、現状把握及び評価を行う。②～④の目標については「屋久島世界遺産地域モニタリング計画」等により関係機関が実施した各種調査結果等をベースに現状把握及び評価を行う。

表　１　森林生態系の管理目標と令和６年度の現状評価の実施地域

森林生態系の管理目標	現状把握･評価予定地域
①屋久島の多雨環境を反映したシダ植物の林床被度の回復	植生保護柵 6 箇所（図 1） （カンカケ 600m、カンノン、愛子岳 600m、愛子岳 800m、中間 1、尾之間試験地）
②屋久島世界自然遺産の顕著な普遍的価値である植生垂直分布を形成する植物種の多様性の回復	モニタリング計画による西部地域の植生垂直分布調査実施箇所（図 2） （200～1600m の各調査プロット）
③ヤクシカの嗜好性植物種の更新	
④絶滅のおそれのある固有植物種等の保全	モニタリング計画による本年度の絶滅のおそれのある固有植物種等の調査地域（モニタリングサイト）

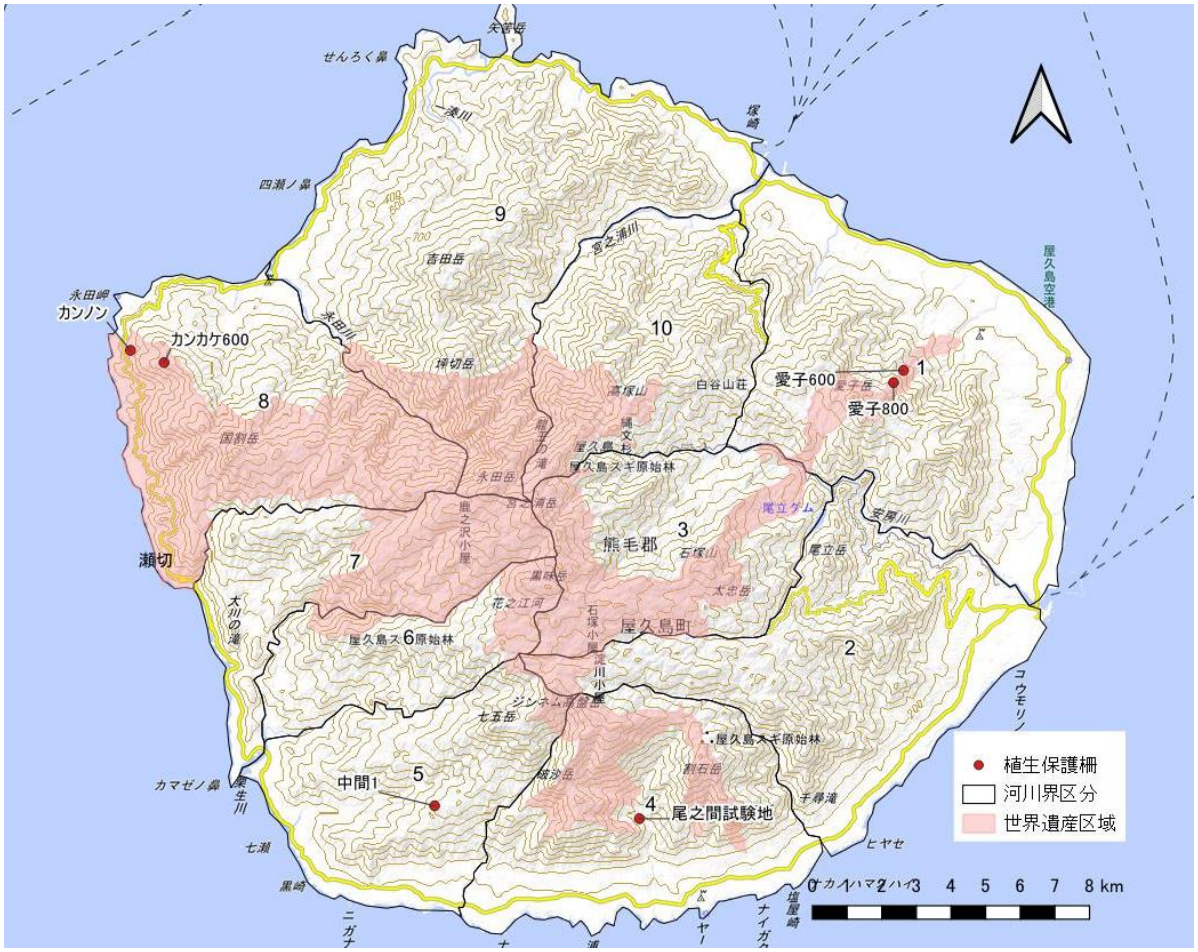

図　１　植生保護柵調査予定箇所（赤色プロット部分）

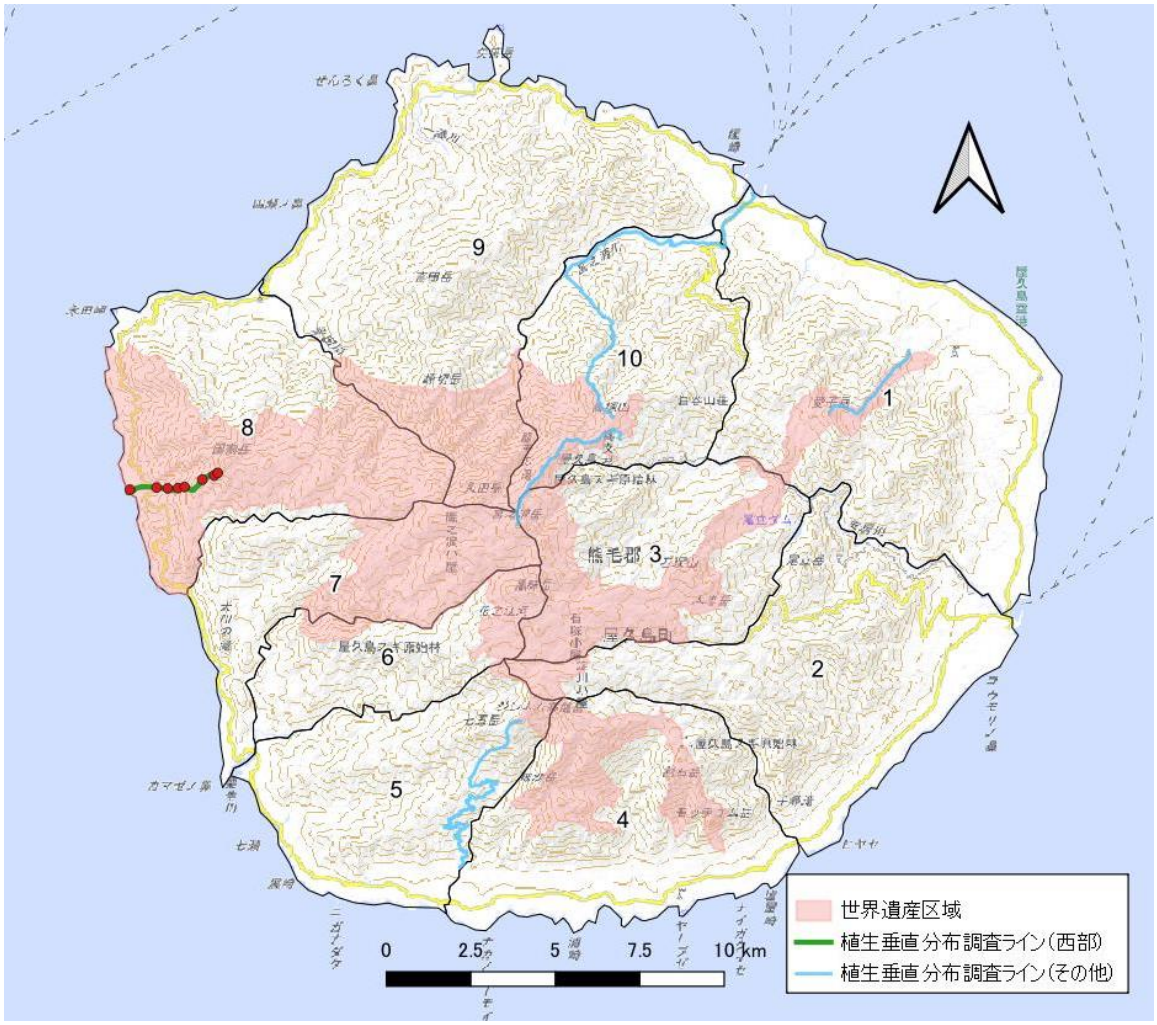

図 2　現状評価を実施する屋久島西部地域の植生垂直分布調査実施箇所（赤色プロット部分）

①屋久島の多雨環境を反映したシダ植物の林床被度の回復

評価指標：シダ植物の林床被度
評価基準：植生保護柵外のシダ植物の被度を柵内の 50%を目安として回復させる。
把握方法：植生保護柵内外の植生調査においてシダ植物の被度を百分率（%）で記録し、柵内外の違いを定量的に比較する。

本年度は、図 1 の植生保護柵 6 箇所で現地調査を実施し、現状把握及び現状評価を行う。

なお、目標となる状況に至っていない場合でも、過年度からの変化傾向が目標に向かっているのかどうかを示すものとする。

②屋久島世界自然遺産の顕著な普遍的価値である植生垂直分布を形成する植物種の多様性の回復

評価指標：植物種数
評価基準：各標高帯において 2000 年代の確認植物種数に回復させる。
把握方法：植生垂直分布調査結果から各標高帯の草本層の植物種名・種数を抽出して 2000 年代の状況と比較する。また、種数だけでなく 2000 年代の調査以降に消失した種の回復（再出現）状況も確認する。

本年度は、九州森林管理局計画課の事業において実施予定の屋久島西部地域（図２）の植生垂直分布調査結果を活用し、屋久島西部地域の本目標の現状について評価を更新する。

なお、①と同様、目標となる状況に至っていない場合でも、過年度からの変化傾向が目標に向かっているのかどうかを示すものとする。

③ヤクシカの嗜好性植物種の更新

評価指標：	嗜好性植物種の種数、被度
評価基準：	ヤクシカの嗜好性植物種の確認種数、被度を過年度から回復または維持増加させる。
把握方法：	嗜好性植物種について生育の更新状況を把握しやすい草本層の出現状況及び被度の経年的な変化を確認する。

本年度は、②と同様、九州森林管理局計画課の事業において実施予定の屋久島西部地域（図２）の植生垂直分布調査結果から過年度に選定した嗜好性植物種（リュウビンタイ、コクモウクジャク、ヒロハノコギリシダ、シロヤマシダ、シマシロヤマシダ、ヘゴ、ツルラン、カンツワブキ、ヤクシマアザミ、サツマイナモリ、サンショウソウ、ヒメカカラ、イヌビワ、マテバシイ、アカガシ、カラスザンショウ、ヤクシマカラスザンショウ、ヤクシマオナガカエデ、ヤブニッケイ、ホソバタブ）を抽出して、出現状況や被度の経年的な変化を確認し、屋久島西部地域の本目標の現状について評価を更新する。

なお、現状評価箇所のうち過年度に記録のある箇所については、①と同様、目標となる状況に至っていない場合でも、過年度からの変化傾向が目標に向かっているのかどうかを示すものとする。

④絶滅のおそれのある固有植物種等の保全

評価指標：	希少種・固有植物種の生育確認箇所数・個体数
評価基準：	既往調査地において絶滅のおそれのある固有植物種等の生育確認箇所数・生育個体数を過年度から維持増加させる。
把握方法：	環境省事業で調査対象種として選定された絶滅のおそれのある固有植物種等 267 種のうち、既往調査で確認されている 91 種を指標種とし、当該事業の調査結果から指標種の確認地点数・確認個体数について経年的な変化を確認する。

本年度も、環境省事業において実施予定の絶滅のおそれのある固有植物種等の調査結果を活用し、本目標の現状について評価を更新する。

２．今後の取組予定

調査結果が得られ次第、データを整理し、令和 6 年度第 2 回ヤクシカ WG で各目標の現状把握及び評価結果について報告し、森林生態系管理を行ううえで特に重要な地域を抽出する。